夏本番！
乳牛に涼しいひとときを

釧路の涼しい夏も、乳牛にとっては過酷な夏かもしれません。夏に向けて、暑熱対策を紹介します。

暑熱の影響

乳牛（泌乳牛）の適温域は〇～二〇℃とされています。特に暑熱には弱く、気温上昇に伴い、乾物摂取量の低下、乳量の減少、中期的には繁殖成績にも影響し生産性を落とします。

右図は過去一五年間、七～八月における最高気温の平均です。特に七月の最高気温が上昇傾向にあり、早めの暑熱対策が必要です。

換気扇によるクーリング

換気扇の効果としては主に以下の２点があります。

＊舎内の湿度が低下する

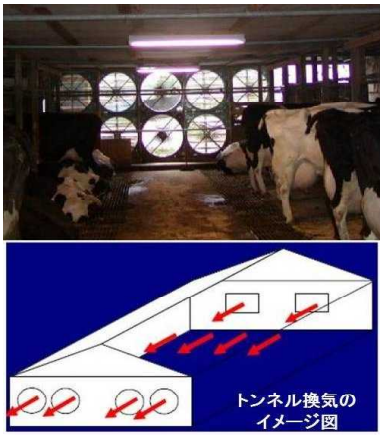
＊舎内の空気が流れる（動く）

暑熱時に牛が感じるストレスは湿度が高いとさらに暑く、風があると涼しく感じます。換気することで体感的に涼しく感じる効果が得られます。

①トンネル換気

トンネル換気は入気口から外気を取り入れ、換気扇で屋外へ強制的に排気する方法です。

つなぎ牛舎で取り入れられています。



②リレー式換気

リレー式換気は一定間隔※で設置した換気扇で空気を受け流す（リレーする）換気方法です。フリーストールや屋外飼槽の他、つなぎ牛舎ではトンネル換気と併用している事例もあります。

※ファンの間隔は直径の一〇倍以内

換気扇の風を牛体に当てクールダウン

夜間の温度を下げる

私たちが日中暑くても、夜間涼しければ夏バテが回避できるのと同じで、夜間の涼しさを活かした暑熱対策も有効です。

朝、屋外より牛舎内の温度が高いと感じたら、夜間も換気扇をインバーターでゆっくりと稼働させ、屋外の涼しい空気を取り込みましょう。

さらに、夕方分のエサを多めに給与すると気温が下がる時間帯の採食量向上が期待できます。

放牧の場合

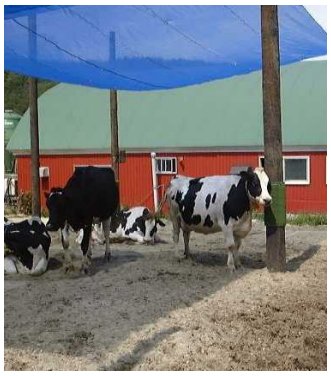
放牧の場合も、夜間に放牧する事で日中の暑熱ダメージ回復につながります。猛暑時は換気扇や牛床マットで安楽性を高めた牛舎内で舎飼し、夜間放牧に切り替えている事例もあります。

日中、放牧する時は、日陰がある牧区を選びましょう。

乾乳牛の暑熱対策も忘れずに

乾乳期間中の暑熱ストレスは免疫低下や分娩後乳量の減少、子牛の免疫吸収能力の低下などの影響があります。

泌乳牛同様、暑熱対策を行いましょう。


乾乳牛パドックの日よけ

暑い夏の一日の中で涼しさを感じるひとときを乳牛に提供し、暑熱ダメージを最小限にしましょう。

（平成二八年五月執筆）

釧路農業改良普及センター　釧路中西部支所